



書  
々  
武  
士  
於  
家  
共  
子  
五

特別  
A13  
4453  
5



4453  
5

古今武士形記巻第一

目録

神原家圖書記



一 波乃種吾紙見世

二丁目

是居子紙を物おぼゆる  
於人にも極しはるる世の  
心持ゆきま出たるとはなり

二 命乞の三津寺の八幡

七丁目

平井と川まね乃の外乃情の  
恨より親仁にめぐりて居る  
境乃娘色くの恋と持る事

ウ

三

くひれ焼付る火打石賣

十二丁目

玉川千之丞内儀仕立  
流と云れどもつゝ同様の事  
故より新築地と云く事

四

江戸かゝる物に依坊主

十七丁目

道中の世の店に仕立  
玉川千之丞内儀仕立  
里乃女々としておまゝなる事

五

面影を素掛の絵馬

九二丁目

お先乃振魚小命と云く事  
玉川千之丞内儀仕立  
お髪乃形たは世の仕合となす事



細乃よの紙見せ

今乃京より何乃町花といつて始末と云く事と云く事  
とと語るをれい帯あり大勢お振魚小命の後村山  
又きつた地まゝに粗云はく小仕掛をまゝに  
集りしにまゝに粗云はく舞臺子の何そい掃不  
花代色一歩つゝまゝに極め今乃世乃形も同お小  
おと勤め物なりと云く事と云く事  
少して産振魚の境額又まゝにわあんと云く事  
や草履おゆもと云く事と云く事  
種乃集れおれい芝居の果より取乃形と云く事  
てさゝぬも町乃まゝに海と云く事と云く事  
くあはれおんちりあく。と云く事と云く事

又の湯ののち拭ぬ砂やうくはみちが物とさうにぬ  
 たりし小一年妙吉岡山國降三百五十四の時法蓮山  
 の福信系系して市法蓮の後夫法蓮と名おしるに  
 田舎入るぬ川ぬ見入るこひるぬあるとやめく買出た  
 程ふおのぬのまき目鼻入はけの目とぼやくもより  
 登杖は賣分れたる一巻脚指を投し空りぬは法蓮  
 等のよりある物とさひおの挿入とまうに今の世の味  
 人のされとくとそあるも法村山産の花ざり。法村  
 物とさとくぬく何怪しく時勢様と舞のとさるるだ  
 一人も小惚さるるありさ何る日身山の挿おけてさる  
 よらした塩竈の一枝と物とさとくぬりぬぬ入のさあ  
 おりしやうとさうさう。林お墨のまかり小文筆りさ

男あつてく登のり酒事とるて幕とてぬせ。夕白  
 らりくとむらるる鳥と何れ人乃んるてぬぬぬは提  
 重乃ぬたてく酒音なり。重くとさるてさう。の  
 袖を丈のさる様とえけ情とさるる男さるうとさ  
 くとまたは法蓮のさるつよりある味とさるさるさ  
 ぬ。それ花小鳥とさるるぬぬとさるるさるさるさ  
 ぬたおまうしてやじらぬ法蓮のさるさるさるさるさ  
 り。さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさ  
 らるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさ  
 一代のさるのさるさるさるさるさるさるさるさるさ  
 ぬさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさ

は流石に思ふるおやうりし。んかうの火神の  
久慈と一命のしきをたまたまと久いひのん  
緋成りてふらん人わらわのけりてく大勢おま  
おあし。おやうりてふらん人わらわのけりてく  
甚らりらん引入し。上小黒の二重の面を人  
とやうに加賀の宗持の氣の耳を帯ゆらん  
乃美しうわらわのたまたまの。素足小葉をう  
とに。たまたまのけりてく。おあし。おあし。おあし。  
杖りせし。おあし。おあし。おあし。おあし。おあし。  
おあし。おあし。おあし。おあし。おあし。おあし。  
たまたまの。おあし。おあし。おあし。おあし。おあし。  
おあし。おあし。おあし。おあし。おあし。おあし。

何れも思ふるおやうりし。んかうの火神の  
久慈と一命のしきをたまたまと久いひのん  
緋成りてふらん人わらわのけりてく大勢おま  
おあし。おやうりてふらん人わらわのけりてく  
甚らりらん引入し。上小黒の二重の面を人  
とやうに加賀の宗持の氣の耳を帯ゆらん  
乃美しうわらわのたまたまの。素足小葉をう  
とに。たまたまのけりてく。おあし。おあし。おあし。  
杖りせし。おあし。おあし。おあし。おあし。おあし。  
おあし。おあし。おあし。おあし。おあし。おあし。  
たまたまの。おあし。おあし。おあし。おあし。おあし。  
おあし。おあし。おあし。おあし。おあし。おあし。



さしづめなればす。そねりあるの勤めもさそく  
十高を束つ高の東洞院と云のひく。りも家あり  
男をた切込め我らたふさく。身と柱く人よ難ま  
の掛しと云ひ定りし。自然と十高を束つ。通  
し。あはれと云く。はる麻衣と云はらむ。し  
ゆり。今らと云ゆりく。是より麻衣の縁とありて  
手にあひと云く。二年ありの契りのうちふの  
ちるあしと云ひれ。かどく。つとあ外あり。さ  
ひはやく。袖をまふ気はと云ひ。二門らと云ひん  
ゆり。若乃。雲衣と云ひ。継母をい。一通り云  
恨と云。おとく。行方と云。い。どあり。袖をま  
と。か。け。と。云。い。の。り。君。の。ま。れ。た。は。れ。束。の。ま。れ

えい。あ。ひ。さ。う。ひ。中。孫。を。ひ。ふ。さ。は。び。く。  
引。籠。く。ま。う。う。後。の。美。服。色。か。り。り。ぬ。け。お。り。と。就  
か。こ。ふ。り。け。く。首。尾。く。涼。ど。り。ひ。く。新。後  
乃。う。町。小。住。お。と。り。め。え。れ。い。流。才。ふ。気。お。と。よ  
り。く。あり。と。世。お。び。た。乃。見。せ。は。れ。と。く。紙。と。高  
賣。と。せ。と。と。年。い。か。り。ぬ。と。れ。出。お。し。と。あ。い。  
何。束。の。勤。め。と。云。や。め。ら。ん。の。あ。ら。ひ。入。と。い。ひ。  
う。う。ま。れ。さ。後。者。と。云。ひ。う。ら。い。あ。ら。ひ。髪。乃。何。ゆ。お  
情。う。う。一。世。お。あ。ひ。入。ま。う。く。と。も。も。れ。流。衣。と  
見。く。と。お。は。ば。め。え。は。か。せ。ま。う。て。の。う。ら。う。う。  
髪。と。と。判。し。と。ん。と。あ。ふ。甲。髪。お。く。今。と。い。は。れ。れ  
た。人。お。い。ま。う。く。の。憎。や。と。と。座。あ。う。て。髪。と。と。い



名あふみれい二掃素越十把りひく。是れ  
状とまう。一。やま。またふ。い。ち。あ。つ。さ。れ  
あ。る。と。是。后。く。り。と。演。の。あ。系。屋。の。か。れ。呼。込。せ。り  
そ。の。の。盡。志。く。な。り。あ。る。子。よ。小。弁。下。り。て。あ  
ぬ。ま。の。極。其。を。復。の。ま。び。中。間。より。集。く。指。ま  
ぬ。あ。れ。い。約。登。り。あ。る。男。り。ち。交。ぬ。より。礼。よ。ま。う。  
只。今。の。ま。り。の。け。に。合。と。三。指。実。と。と。口。と。  
P. 一。り。り。と。大。其。ひ。こ。く。著。せ。一。あ。今。付。り。ん。が。う  
よ。武。角。つ。と。一。て。さ。ま。お。さ。れ。一。は。魚。住。代。と。也  
せ。は。と。い。一。落。の。あ。ら。か。と。な。れ。い。あ。た。林。の。春。代  
口。川。ま。ん。か。一。呼。込。時。日。乃。舞。登。か。て。あ。ま。と。い。み。意  
乃。元。中。に。氣。の。毒。さ。く。ゆ。さ。く。一。鹿。角。の。今。の。世。も

一。野。ホ。大。乃。み。と。金。瓶。の。ま。と。ん。多。ろ。あ。ふ。万。り。あ。り  
て。抽。成。つ。つ。い。の。り。ま。し。ま。い。舞。登。夜。登。色。夜。本。綿  
よ。う。う。は。れ。並。れ。地。を。夜。の。か。契。納。小。中。紅。乃。裏。代  
は。け。浅。菜。露。ふ。じ。く。ま。に。付。れ。い。さ。く。く。人。お。ま。り。さ。い。あ  
上。又。也。あ。ま。ま。ま。ま。ま。と。海。法。と。内。裡。乃。あ。り。一。小  
近。年。の。衣。織。金。入。毛。披。と。ま。り。も。ゆ。り。ん。役。志。あ。れ。い  
と。く。の。の。と。ま。ぬ。さ。く。一。大。か。乃。金。瓶。は。ね。ろ。く。く  
つ。ま。た。雨。の。備。侍。乃。測。と。い。は。堰。の。あ。い。ひ。あ。り。後。の。の  
や。と。た。じ。し。一。意。志。と。也。代。著。一。あ。ら。わ。や。ま。の。あ  
一。も。時。の。雨。自。の。一。は。抽。成。お。し。さ。は。今。あ。り。ま。れ。た  
袂。の。一。小。子。た。の。女。侍。の。平。井。と。い。い。ま。あ。く。末。の。世。り  
ら。り。ま。と。い。一。あ。は。時。境。乃。大。乃。梅。小。を。湯。向。と





りは後々福ありぬ首尾小ありて。志のまらぬい  
 く命せまなむの程とせらあなり。実小あつ  
 くしるまのまらぬ程とせらあなり。実小あつ  
 まへにいせなむありて。それ見振るごとく  
 倭小。夜寝好くして肌小酌言とつる名者と境あ  
 枝葉は小行くとつるに笑ひ思ひ節の男の流る  
 乃若小梅入一乃拾羽織。胸言に付付て割  
 胡椒乃とつら目費乃小脇指。むり中統  
 乃草乃中若小酌引乃指付とせけけやむ  
 風俗ともやあふよふとつるむむり外あり  
 二日たる夜あ乃奥小通りくば親仁ちふふと  
 身主れあひしとせけけ。こあむ移る小小法

ありし一丸おき居とゆわくありんづらありき  
 縁ありしや。置るゝとく。酔と無乃種。うてり小添  
 却と仕付け。うら。た小氣。つら。多くん。け。親  
 仁か。て。け。あ。い。そ。い。だ。あ。く。是。う。り。て。念。伝。と。か  
 つ。あ。る。あ。の。ま。う。上。ふ。小。と。ら。れ。て。け。男。後。り。ま。る。い。扱。也  
 く。や。う。う。さ。あ。入。と。れ。る。う。さ。あ。の。橋。よ。ら。い。入  
 し。私。乃。い。り。あ。り。わ。り。子。あ。り。う。や。け。種。つ。い。の。の。の  
 し。う。ら。り。あ。る。念。也。せ。す。所。と。ふ。び。ん。よ。も。あ。り。ふ  
 親。乃。も。う。そ。の。か。く。と。う。く。れ。い。情。ふ。あ。り。う。程  
 海。と。う。活。り。れ。と。う。せ。ら。あ。の。ま。あ。は。あ。り。と。今  
 と。な。の。う。い。あ。い。の。う。う。う。あ。り。あ。つ。け。世。と。う。せ  
 ば。親。に。あ。り。う。い。と。種。う。い。と。糸。又。く。か。う。是。へ。と。い。い

へ。か。く。く。く。い。法。の。小。ね。じ。あり。長。町。を  
 かり。左。邊。と。う。と。さ。あ。り。う。と。ヤ。ー。捨。く。ゆ。う  
 志。乃。ま。り。活。流。く。神。紙。枕。小。夏。見。か。所。町。病人。の。り  
 物。志。乃。の。い。か。記。入。る。い。是。昔。に。志。乃。ま。目。覚。く。う。う  
 十。二。又。り。又。女。乃。小。袖。白。く。中。に。着。た。の。扱。さ。か  
 浅。黄。麻。子。乃。面。小。付。切。乃。文。紙。奇。や。う。の。扱。お  
 帯。二。ま。ま。夏。の。柄。地。と。ほ。い。引。ま。り。し。よ。び。と。世。に  
 鬘。い。さ。ら。た。ぬ。ぐ。し。申。種。う。り。あ。る。紙。引。た。紙。よ。く  
 ひと。よ。び。び。い。り。う。ら。い。背。り。ふ。ま。の。あ。り。人。と。心。り。た。に  
 ひ。と。く。と。あ。く。お。り。た。う。ら。う。や。と。き。と。あ。げ。く  
 し。と。く。あ。く。息。見。あ。り。せ。う。い。の。う。て。う。た。世。乃  
 人。を。あ。り。た。と。う。う。う。く。物。と。い。ひ。た。あ。り。う。と。う。い。



おひの焼付の火打石賣

七玉川乃りり小舟乃る為由よ子之悪のじし  
風あけの奥はちろきうとてうひ中て家神乃  
清菴と叫く乃雨敷まじ乃女井筒は何ぞ  
て是よの立あふる一十乃妻より也敷乃拜  
巻と踏まめ何十二乃大花までゆり袖成て一  
目と見袖よあられぬる。未乃世のあ女能是よあ  
やうへへ何由かひ乃程云りり三年があひじ  
ゆり乃人とおひをせむはゆめ夢野出せよ  
ゆり乃ゆあごよ書と兼應元年秋のよれ曇  
新とうい袖の淋とちろふ一あはゆ雨方の  
南おそ小舟乃程の筆成ゆせられるる。更く

れあごさこのわりぬも法長流より。一年次とつら  
男来く口行と云事と袖とく女袖子大の巻よ  
とせよ是と時花りきく乃由女はゆれらる袖よ  
あはゆ鳴き志のめくひり乃ゆせられるる河  
原乃野崎あゆまう一とらりてえぬまらり  
一せあぐいも流あり乃ま後せよと浮世後の  
名入花田因近とつらる志英巻とつら一房かりぬ  
ゆり乃妻まを我とあくそい結師よ依野と  
一又い巻あふひ一小袖あはれ一しかりと  
せの是よ同乃かよあ世の中花一扇月小村雲のあ  
つはのけく。あふ人の位鼻とあはれ一あぬ人の出額  
とせあふひお書いとしまあわかた千之悪の志

ましく形自憐されいせり上たじむるたよふもあ  
れば中よとけいんもさるる中へく勝おとさぬりて書  
つ。是もさよよ夜國乃王恩有。晝夜ふさひあせ  
ざりし同し。後忠定死時玉川とあふらり  
わされく。是も相奇とあそびたかともあへる  
名と埋むとせたり。秋乃とめりあかお  
御骨とらるる時花宿干之忠結文よあやみく  
自然と傳付あつらんひとよぬ出尾とあつる  
おのあ結とらひあせとわたり。されともげんあ結  
よ極まれり。秋乃勅めとわらあひあ結とわ  
そひ十日とあふり。秋來智と侍中も俄に盡と  
及ひかたり。もも酔く乃府配お系乃あはた

脇見し小意とりあへく。高尾南條と東福ち  
よかきくと徳山のうた坊主代と乃事れり。此と  
賣つしひ又ハ山林竹本と切結し。皆いそしの  
あへあ。後ひしとて筆よりとかう。ぬ威を  
高く乃なげと就く。ぬたがざりりあへ今病  
と治の甲かりあつる。情よあやうあへん投と  
らたろ。阿千之悪用。花乃文席とあけし。ゆろく  
と病よかりとらあてて。日記け上とふ。結とあ  
るせり。いつさばあとおして。あひれく。あへん乃  
とく。元日。一りを年の書と系。文。一。人の高尾  
とあ。ま。讀。よ。け。と。武士乃は。た。あ。ひ。鬼。の。や  
かり。男。と。く。と。や。り。け。百。性。よ。あ。へ。ハ。大。き。と。あ。く。と。せ



邪まゝの厚髪とおろさせ長たよ袴とゑせ一産  
 切は具とあゝせあよ自由よ女に入成あくと  
 ろいおせり奥程ゆるしき成まもりに備けぬ  
 毛ささるる乃泣くゆひのあゝかるべし執人掛  
 一と急く乃志よん人しきぬ情あつく教わさか  
 りまゝせよあゝつらさとしつらぬ涙もろ志た信乃の  
 ぎやびるなす一風乃まげしきタムレ物と吾目  
 和あゝくもや小山の松乃葉志ろく見まゝ一抱  
 のさろくもさる樹乃下火糸の川糸と教乃却亦  
 ろして後世まのやうは熱くゆゑに石火のまろ  
 物よ膝ふる川の火打石とひろむ海中と賣出りく  
 油まゝくべまほくも月暮しのちの出是と教の今賢

くといつりば力を美乃いやはかして玉川の瀬集そく金船  
をまよ小千之悪口乗乃も持どつこまり麻乃乃掛  
ら所入いんえと手書指あり。お小美乃叔重乃喰ふと  
ち所乃乃お。いけ人のびり。と字の尾列小かられと  
たに風海男那り千之悪口史ありの時をより深く  
Pかりて遠ぬもどか。しほひく久。しほり方鬼  
あれざらゆと秋。ういひ人傳へく又氣乃河系は浅  
ま。き新しと浦。またと燈進。い。支。洞。とて人の新  
と急難。さ。め。か。た。た。物。い。あ。く。と。小。も。あ。く。せ。路。り  
の船の中そ人。よ。指。い。さ。と。浦。あ。く。ま。い。の。何。も。と。せ。ひ  
た。に。世。あり。は。お。い。あ。り。小。お。い。せ。い。の。い。ひ。と。し。い。  
由。回。く。え。い。あ。り。の。支。と。く。ま。な。う。と。い。ひ。の。し。せ。い。小。え

つ。ゆ。の。あ。た。い。あ。と。ん。か。ら。り。給。か。く。ま。あ。那。く。ぬ  
り。と。う。う。と。と。あ。い。ゆ。を。と。と。と。て。靴。多。う。ら。い  
は。お。小。か。と。う。い。け。り。ゆ。ゆ。あ。ま。く。何。り。それ。う。え  
と。と。と。つ。き。あ。く。し。く。と。秋。の。お。あ。と。い。ひ。り。小。楢  
嶋。より。く。麻。も。あ。あ。や。ら。い。あ。い。と。ゆ。い。ぬ。は。と。い  
起。別。と。く。時。が。の。お。秋。か。小。う。え。と。鹿。も。い。け  
と。に。河。系。と。ら。い。や。り。く。杖。よ。蓋。と。入。同。備。と。提。て  
人。と。と。つ。と。む。と。春。板。の。小。石。と。踏。え。く。あ。あ。乃。治  
乃。濃。枕。と。さ。う。ぐ。と。う。う。り。の。橋。下。下。よ。行。て。尾  
張。乃。三。木。板。と。む。う。の。名。は。い。ん。た。あ。れ。と。う。い  
霜。月。サ。空。月。の。曙。あ。い。ま。こ。人。具。も。あ。く。う。う。に。漬。ま  
あ。寝。あ。乃。何。も。と。あ。れ。い。つ。と。う。ま。人。板。と。う。う。い



江戸かゝるく候々城坊主

佛法僧尼ありて野松乃尾河内乃圃ふもともまよふに  
りて夏中迄も去乃園まもつちなりはあつたはるに中  
人のとどぬ一鉢緒さへ受弘法大師の園のちの靈地  
ありば山つゞき法乃まや一年ありくまよふとま  
小念仏の老和尚おきなぶつのおやうぼうありき。あまうこのは子このあり中  
よ可見とさるる夏俣あり人乃むりにとめりるにあひ  
の夏居をまむ村主婦むらぢめと一牧着板小舟かちやくいたこぶねで廣あ人の命  
とる所ところの女をごころの乃拍子うたひりまうこの世も出来ま  
ふにる人ひとといふる乃をみふく。んど掛かさうたり  
見込みくま乃まむおしまれ月つきの廿日ふたひあまりの定さだま  
り一年いちねんの法はふのい入一山ひとやまに隠かくれ候まと拂はらひ候まとひ候ま

法圓はふえんのあま今いまけりよ来きる度たびはじこひ候ま  
恒とこにありあるは考かんがひ松葉しょうえの由よしはない南みなみの月つきと  
なと一朔しつ乃なり勅しつめめ候まかくて三年さんねんの積つみひの  
ありりもああへま古里ふるさと乃なりもももも忘わすれるふ世よ  
も一町いちまちか入いるま小津こつ之の家やとせーいとせられ  
てあふりく情もぬく法人しやうにん乃なり無む様しやうとありぬ主しゆ胎た  
乃なり町まちとあひけく外あの勅しつめめのあつつややとま  
ああるまめめとまれれややとせーいに書深ふかよの法はふとま  
せせられるまとまてて候まとまててひひとまにまとまつつけ  
るま今いま爰こゝ小舟こぶねははららくまららにまにまのまねねのま泡あは  
小浦こらふく埋と井いとまつつとまのま乃なり飛とひひとまのまのま桶おけ  
小こわわららくまばま清きよとまてて候まとまららくま入い目めのま也なり

袖ひもろくそとて玉枝のふざりぬれば遠くは  
あまの世もわろた定めぬすむれはかきまて逢ひ  
掃めるべし年月乃よりとそくけ度ねひ  
ふたふひさるゆりされはいとまじ盛といひ  
乃人色極め小情むねありは父慈母小まはると親  
の秋さうれはもふふあく東小ゆりま居海とと胃  
づらりのそお小ふ来乃葉の煙ととく葉登のぬく  
ふもそけりあく天月ゆり乃外葉ととくさ  
竹のくさる神棚は表をのの六字と掛大徳利は  
菊とゆけく風とぬのいれはちと我とぬく故原と  
あまの園様あく枕あがりしてさうり清のい源は  
あわりのくは小若り終く夏小現とるらととく  
晴



乃種一處鶴の鳴る園の東へおびじさ後へ是より後の  
無事と志くも所なむ色むりたりたりありたる事  
あられせぬは是と懸くと相馴れし津古珠致せり  
せば又洞玉とつゝおたぬ所風情そよよやうしく明  
方の雲晴く。葦山とありつゝはんあらうくは  
山へかつと立ちゆきたりとて送るこゝ山へ  
たり木のうげおよやえにばありあは今の心は鳴り  
せ戸さう種うたえとちとぐり念仏お念珠をのり  
たりあり。又かととてくわあやしく。立ちくゝは  
懸るありと懸と拂ひは云業おとろひあはまり  
かたりと。又ありとありとありと。恥と悔めは甲斐あり  
け事お尚しやととる世のおひ出たのりあり

と同一夜に雲ふるめく。後乃世のゆらとあはれわ  
る乃心是る人。朝は山の井とむしひゆへよ来本  
よむむび執行のゆらとむしひとてあらうて  
なれ里はごさ市といふ所は野人乃様まを格あ  
一かりとるが。浅之懸橋あたらしく。細きむ出たり  
ハ担籠りな川と。流りゆきおしとぐりつゝは乃女は  
たつたつとく宿小降り。小は意やせありくそ我  
懸ひと通ひ。松火出たる唐室と窓より覗く。心は  
人の法師とありと。かありと。あけてあげてあれ  
おんせと何とくおんせと。あけてあげてありけ  
さぬ。ゆりてありと。さなれはあはさり。女ありあけ  
おたのちあり。一山乃坊主おとらと。ま集りて。是と



面鏡の糸掛の徳

河原に二の削りて野郎紋やうとつくと物  
て世よして時花かわらう世の世乃家にあつて  
ひとりの紋あびとや乃か人五村吉保とくも  
いふよとくす。久乃女まゝの娘ふかひぬら  
つ。舟も山乃煙とあひぬ。文揚まねの  
云小弄乃由つとそれいこらう。よらんひん  
徳のあつたのおおぶあもつす。河原とけい  
鬼人の目出さるる。お龍と夜本とくら  
ぬれあつた。おどたのよれを列とやせん。  
いひとあげくまゝ。き世乃。ちねとく。一と世  
乃。芝居とて。熱乃ぬらわらう。一と。奇ね  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。



我乃あえわれの質のわづらに年いさ所あり去乃初程  
云乃仕進しむ村有跡のそく定糸乃くられ橋見この  
時看板もぬらり小回志よからぬ男を橋板  
うげ小刻織意くわく及中小山カうて有よ  
もんちや掛く。初乃我先とかんく積乃くら積  
賣よのやりうげ西新乃まこおたうけりう目  
とまかくうとまうに有跡とんうけくまにぬ  
まう揚技よは男の袖口小あげく何ふのあま  
ろふせく通りくるに男程礼乃ふまわりて高  
拍と積内ぐ洋板程芝居乃おふらり積中園飯後  
が積(ゆり)の蓄わんつうとまう所全積えわれを  
け息のかおふとあいつくまおうこれ念力若と足

まのか山小かのまくおひ乃外お備儀大島とあり  
て又年あまらりもさく初よのかりも糸板紙と  
くは川系よまをせむ村有跡と初ひくるにま  
い役志乃あまひまうい戸かへられ今年あま  
くさられくるや格う是とまうより糸よ一糸も  
とまうに又志板乃ふさ。巻坂山小色志とま  
わら志乃園ちりあくまふりして初乃小ま  
は油赤坂金川のまふ志けさる女乃人とま  
が耳あもまうれは新川よりいさ入といま地境町  
小初く有跡と初まらにけし初乃芝居と初ま  
初乃笑せく後人らりやあま志とまうとや志  
て男小たりうけと落れはあま志とあまう



此本乃...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

吉野  
 ...

吉野学末堂

大坂

心齋橋南四丁目東側  
 吉野学末堂  
 口安土所北、今西側

同

...  
 ...

江戸

日本橋白丁町西側  
 ...  
 ...

